

(議長)

次に、田畑議員の発言を許可致します。

(議長)

田畑議員。

「田畑議員」

はい。まず、日本で最も美しい村連合事業問題について質問致します。

この事業は平成27年から始まりました。えー令和6年、10年経ちました。えーこの10年間の投資は、1,156万7千円であります。内訳は、90%以上、加盟料と私は認識しております。町の特別職と町職員の旅費、10年間の費用対効果はどうなっているのでしょうか。

具体的に何年度に何をどうしたのか。また10年経って、令和8年現在、どうなっているのか。

日本で最も美しい村連合の基本理念は、の大黒柱一つは、地域の景観・環境・文化を守ることです。一つは、観光振興と経済の活性化です。これについてお答え願いたいと思います。

2つ目。この事業は、5年ごとにローリングをしております。江差町も令和3年12月22日から23、2日間審査が行われて、行われました。その際に、審査員を函館空港から当役場庁舎まで送迎をしております。この連合の規定、規約に違反していると私は思います。これも規定違反と考えますが、お答え下さい。

3点目。審査員は、申請に記載されている景観や文化・資源を自らの目で確かめるのではなく、地域で活動している住民の等々の様々な立場の人々からヒアリングが行われます。その熱意、ビジョンが本物であるかどうか、厳しく審査されます。地域全体で、その美意識が共有されているかチェックされます。通常、1日か2日かけて行われております。地域の隅々まで詳細な審査が行われます。

そこで、5年目の審査行程を見たら、皐月蔵チャミセ、カンナヅキ、江差追分、山車会館、これで、町の隅々までヒアリングをしたとは思えません。海岸、浜等の景観、清掃活動を9年間続けている特定非営利活動法人アース環境ネットワーク、通称アスパと言いますが、そのヒアリングをなぜ行わ、行わなかったのかお答えください。以上です。

「町長」

議長。

(議長)

町長。

## 「町長」

田畑議員の1問目、日本で最も美しい村の加盟についてのご質問にお答え致します。

最初に、この事業に対する費用対効果に関するご質問でございますが、例年開催されている美しい村まつりやイベントへの参加によりPRを実施し、えー併せて物販を行うなど、江差町の知名度向上とともに江差を訪れて頂く1つのきっかけになるものと考えております。

えー、また、令和8年現在どのようになっているのかというご質問でございますが、あー行政報告でも申し上げましたとおり、昨年11月に2回目の5年目審査が行われ、えー先月25日付で審査を通過しております。

えー2点目、令和3年12月に実施された審査に関し、審査員を送迎したことについて規約違反ではないかのご質問でございます。

まず、審査員の送迎について明確に定められている規約・規定等は存在致しません。

その上で当町と致しましても、ノベルティの配布も含め一般的な対応の範囲内であると判断しております。また連合事務局にも確認を行い、同様の認識でございます。

次に5年目審査における行程についてのご質問でございますが、田畑議員が代表を務めるアスパへのヒアリングをなぜ行わなかったのかという件に関しましては、議員ご承知のように、当町の日本美しい村登録資源は、いにしえ街道、江差追分、姥神大神宮渡御祭の3つでございますので、これらの地域資源を活用した取り組みを行っている民間団体等を中心にヒアリングを行ったところでございます。

## (議長)

田畑議員。

## 「田畑議員」

えー再質問致します。審査に来た、その2名の方、あの一事務局から推薦されて来たのだと聞いております。

まず、あの2人で一人頭10万円の支給されて来ていると確認しました。

しかし、これはNPO法人であります。極力、色んな経費は、やはり削減出来るところは、削減しながら、事を従事することだと思っておりますが、その細かい話ですが、東京の往復と聞いておりました。東京から江差までの交通機関、安く上げますと、5万円で上がります。

しかし、10万は支給されております。これはまさしく無駄遣いと私は思います。まず、この件でどう考えているのか町長のご所見をお願い致します。

## (議長)

追分観光課長。

## 「追分観光課長」

はい。えー田畑議員からの再質問でございますけれども、えー規約云々という部分に関しましては、あくまでもこれ、美しい村連合の内規の話でございます。

当方の方から答弁というのは控えさせて頂きたいと思えます。

「田畑議員」

議長。

(議長)

はい。田畑議員。

「田畑議員」

えーそれでは、熊問題について質問致します。

令和8年3月現在、熊問題は1ミリも1秒も進んでいないと私は思います。何故ならば、基本的な勘、勘違いがエンドレスに繰り返しているからだと思います。

これを電光石火に解決する方法を田畑が提案致します。現在、全国で行われている愚行は、全て出口論だけの議論を続けているからであります。スピーカーによる街頭啓発、電気柵、檻、ワナ、家庭の残飯の出し方、作物の収穫時期等、肝心要の熊には馬耳東風の状態、熊は毎日のように、昼間、普通に、スーパーに、コンビニに、お金を持たないで買い物をしているのが現状であります。

「打越議員」

質問でないしょ。

(議長)

打越議員、今、田畑議員質問しますので。

「田畑議員」

で、どうしたら、この不幸を急転直下するのか、田畑プランを江差の町民と北海道、国がワンチームとなって今日からでも行動するべきだと考えます。

江差町の山に、熊の楽園、熊食堂を作れば一発で問題は解決します。熊は生きるために食料を確保する行動をしているだけです。原因は世界中に様々あります。目下、江差町民の命と生活を守るために、1日も早く熊食堂を創造するためのプロジェクトチームを作ることを速急に行うべきだと考えます。

ちなみに円卓テーブルの構成メンバーは、今、この書面に記述されます。

最後に、田畑熊プランの骨子です。まず1つ。江差町民の命と生活を守る。2つ。世界中をフードロス、フードレス、問題を解決する。3つ目、江差町の今ピンチをチャンスに変える。4つ目、江差熊モデルを世界中に発信する。5、交付金を頼らない

町にする。これが田畑プランでございます。どうかこれについて、町長の見解をお聞き致します。

(議長)

町長。

「町長」

田畑議員の2問目、熊問題についてのご質問にお答え致します。

まず始めに、田畑議員から全国の熊問題は1ミリも1秒も進んでいないとのご意見がございましたが、国によるクマ被害対策パッケージや道の施策などの支援もあり、道内全体でのヒグマ捕獲頭数は、昨年4月から本年1月末時点までで2,013頭に達し、檜山管内全体でも349頭とかく最高、過去最高を記録するなど、対策は、す、す、進んでいるものと考えています。

次に、田畑議員から個人的見解による田畑熊プランが示され、そのな、その中で、熊食堂を、そ、創造するためのプロジェクトチームを早急に作るべきとのご提案によるご質問がございました。

熊食堂の具体的内容は分かりませんが、一般論として、クマへの餌付けは北海道生物の多様性の保全に関する条例で、鳥獣を捕獲する場合などを除き禁止されております。

これは熊が生ゴミを食べることで、人間のゴミは美味しいと学習し、人、人間を恐れなくなり、生ゴミを求めて市街地や住宅地など人里に引き寄せる原因となるからでございます。

従いまして、田畑議員がご提案された熊食堂のなるものを、熊対策として検討する考えは持ってございません。

(議長)

以上で、田畑議員の一般質問を終わります。